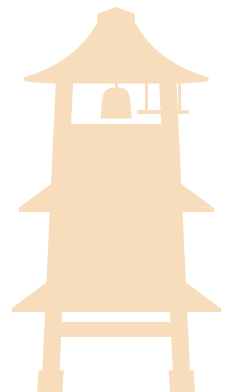


## 第3章

# 教育・文化・スポーツ

共に学び、ふれあい、豊かな人生を送れるまち

- 3-1 生きる力を育む教育の推進
- 3-2 学びを支える教育環境づくり
- 3-3 生涯学習活動の推進
- 3-4 文化・スポーツ活動の推進
- 3-5 文化財の保存・活用



施策を取り巻く状況

- ① グローバル化や技術革新が急速に進み、変化が激しく将来の予測が困難な時代となる中で、社会が直面する課題を自らの課題として捉え、他者と協力しながら解決し、未来を切り拓いていく力が求められています。子どもたちがこうした資質を身に付けられるよう、国は、一人ひとりの能力や適性に応じた「個別最適な学び」と、多様な他者と関わりながら学び合う「協働的な学び」の一体的な充実を図ることとしています。その一環として、一人1台端末など学校における ICT 環境の充実を図る GIGA スクール構想等の取組が進められています。
- ② 令和6（2024）年度の「全国学力・学習状況調査」の結果、本市では、小学6年生で、「国語・算数」の平均正答率が県及び全国の水準を下回っています。また、中学3年生では、「国語・数学」の平均正答率が県及び全国と同水準となっています。  
一方、令和6（2024）年度の「埼玉県学力・学習状況調査」においては、「学力を伸ばした児童生徒」の割合が県平均を上回っており、近年、多くの子どもが学力を伸ばしているといえます。
- ③ 調和のとれた食事、適切な運動、十分な休養・睡眠という「健康三原則」の観点で見れば、本市では、朝食を毎日食べるこどもの割合、こどもの1週間の総運動時間はいずれも減少傾向にあり、1日の睡眠時間が8時間以上であるこどもの割合は横ばいで推移しています。
- ④ 近年、全国的にいじめの認知件数や不登校の児童生徒数が増加傾向にあります。また、入学したばかりの小学1年生が集団生活になじめず、授業中座ってられない、話を聴けない、静かにしてられないなどで授業が成立しにくい状況となる「小1プロブレム」や、中学1年生が学習や生活の変化に適応できないことで、不登校などが生じる「中1ギャップ」が課題となっています。
- ⑤ 特別支援教育を受ける児童生徒数は、全国的に増加傾向にあり、本市においても同様の傾向がみられます。こうした中で、障害のあるこどもの教育的ニーズも多様化しています。
- ⑥ 市立川越高等学校は、普通科と商業系学科を併せ持つ特性から、生徒の多様な進路ニーズへの対応が求められています。また、校舎及び体育館は、建設後30年以上を経過しており、施設の老朽化が進んでいます。

## 施策の目的及び成果指標

### ■ 施策の目的（目指す姿）

こどもたちが、変化の激しい社会でたくましく生き抜く力を育めるまちにします。

### ■ 成果指標

指標名	基準値 (R6)	目標値		目指す方向
		R12	R17	
「埼玉県学力・学習状況調査」における学力を伸ばしたこどもの割合（％）	65.2	67.5	70.0	↗
自分にはよいところがあると思うこどもの割合（％）	84.3	90.0	95.0	↗
1週間の総運動時間（体育授業を除く）が60分未満のこどもの割合（％）	小学生	15.4	12.5	↘
	中学生	15.1		

## 施策の方向性

### 1 確かな学力の育成

- ① デジタル技術を効果的に活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることで、思考力、判断力、表現力や、主体的に学習に臨む姿勢など、未来の担い手として必要な資質・能力の育成を図ります。
- ② グローバルな社会で活躍するために必要な資質・能力を育成するため、英語によるコミュニケーション能力の育成や、国際理解を深める教育の充実を図ります。
- ③ 情報化社会の中で、様々な社会課題を解決できる資質・能力を育成するため、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用できる情報活用能力の育成を図ります。

### 2 豊かな心と健やかな体の育成

- ① こどもたちの自己肯定感や他者を思いやる心を育むため、様々な体験活動や読書活動、道徳教育などの充実を図ります。
- ② こどもたちが生涯にわたって健康的な生活を送れるよう、規則正しい生活習慣や運動習慣の確立を図るとともに、感染症等から健康を守るための指導の充実を図ります。
- ③ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける食育を進めるとともに、食育の生きた教材として、栄養バランスのとれた安全安心でおいしい給食を提供します。

### 3 学校生活における支援の充実

- ① こどもたち一人ひとりの発達状況に応じたきめ細かな支援を行うため、幼稚園・保育園・小学校間や小学校・中学校間、中学校・高等学校間等の連携を深め、生活指導上や学習指導上の共通理解の形成を図ります。
- ② 全てのこどもが楽しく安心して学校生活を送れるよう、いじめ、不登校等の未然防止、早期発見、早期対応を図るとともに、様々な課題を抱えるこどもに対し、一人ひとりに寄り添ったきめ細かな支援の充実を図ります。
- ③ 障害のあるこどもたちの主体的な学習と自立を支援するため、特別支援教育の充実を図り、きめ細かな支援を推進するとともに、全てのこどもが共に学び合う教育を推進します。

### 4 市立川越高等学校の特色ある教育の充実

- ① 大学、専門学校への進学や就職など、生徒の多様な進路希望を実現できるよう、教職員の進路指導力向上を図ります。また、時代の変化に対応した教育環境の整備充実を図ります。



ICT を活用した授業風景



職場体験学習の様子



### 施策を取り巻く状況

- ① 変化の激しい社会の中で、教職員には、こどもたちが主体的・対話的に学ぶ学習の展開など、絶えず指導方法の工夫改善が求められています。また、いじめや不登校の増加、外国にルーツを持つこどもや発達に課題があるこどもの増加などの中で、教職員に求められる役割が多様化・複雑化し、業務負担が増加しています。
- ② こどもたちの教育は学校のみで行われるべきものではなく、こどもたちの健やかな成長には、家庭や地域が教育の場として十分な機能を発揮することが必要です。しかしながら、全国的に、地域のつながりが希薄化する中で、「地域の学校」、「地域で育てるこども」という考えが失われ、地域の教育力が低下していると指摘されています。
- ③ 学校教育には、こどもたちが集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばすという特質があります。しかしながら、今後の児童生徒数の減少により、地域によっては、このような教育を実践できる学校規模を維持できなくなることが懸念されています。
- ④ 本市の学校施設は総体的に老朽化が進んでおり、令和17(2035)年までに、建替えの目安としている建設後65年を迎える小学校は校舎11校、体育館2校、中学校では校舎4校、体育館6校にのぼります。また、近年の猛暑日の増加に伴う空調設備の設置のように、変わりゆく時代に対応した学習環境の整備も求められています。



教職員のオンライン研修の様子



学校と地域住民との話し合いの様子

## 施策の目的及び成果指標

### ■ 施策の目的（目指す姿）

こどもたちが安心して質の高い教育を受けられるまちにします。

### ■ 成果指標

指標名	基準値 (R6)	目標値		目指す方向
		R12	R17	
川越市教育委員会が主催する「主体的・対話的で深い学び」に関する研修を受講した教職員の人数（人／年）	285	315	350	↗
特別教室空調整備率（％）	43.0	100	100	↗

## 施策の方向性

### 1 教職員の指導体制の充実

- ① 教職員が時代のニーズや様々な教育課題に対応できるよう、効果的な研修の充実や校内の連携体制の強化を図ります。
- ② 教職員が、こどもたちに向き合う時間や自己研鑽の時間を十分に確保できるよう、デジタル技術などを活用した業務負担の軽減を図ります。

### 2 地域とともにある学校づくりの推進

- ① 学校と家庭、地域が連携・協働するコミュニティ・スクール等を推進し、こどもたちの教育活動の充実を図るとともに、地域でこどもを育てる力の再生と地域コミュニティの活性化を図ります。
- ② こどもたちが生涯にわたりスポーツや文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保できるよう、地域の関係団体や保護者等との相互理解を深めながら、部活動の地域展開を推進します。

### 3 教育環境の整備・充実

- ① こどもたちが学校において安心して質の高い教育を受けられるよう、学校施設に関して、時代の変化に対応した学習環境の向上と老朽化対策を一体的に推進します。
- ② こどもたちが集団の中で切磋琢磨できる環境を整えるため、児童生徒数の推移や校舎の老朽化の状況などを踏まえ、学校の配置や規模、通学区域等の見直しを図ります。

### 施策を取り巻く状況

- ① 国の「第4期教育振興基本計画」において、教養を高め、多様な人々と出会い、自己実現を図る生涯学習は、人生100年時代において、ウェルビーイングの向上につながる重要な意義を有するものと位置付けられています。
- ② 変化の激しい社会の中で、主体的なキャリア形成や自己実現を図るために、知識や技術を時代の変化に合わせて学び直すことの重要性が高まっています。
- ③ 地域課題の多様化・複雑化などの中で、地域住民が様々な活動に積極的・主体的に関わる意識を高め、共に学び合いながら課題解決に取り組んでいくことが期待されています。
- ④ 令和6（2024）年度に実施した「川越市文化芸術及び生涯学習に関する意識調査」によれば、直近1年間における生涯学習への取組状況について、「していない」と回答した割合は35.4%となっており、その理由としては、「仕事や家事が忙しくて時間が取れない」が最も多く47.6%となっています。
- ⑤ 同調査において、「生涯学習をどのように行っているか」との問いに対し、「パソコン・インターネットなど」と回答した人の割合は増加傾向で推移しており、「自宅での活動（本や雑誌等による自主的な学び）」（52.8%）に次いで2番目に多い40.5%となっています。一方で、「公民館の講座や教室」と回答した人の割合は10.6%、その他、「図書館、博物館での講座や教室」と回答した人の割合は数パーセントと、相対的に低くとどまっています。



川越大学間連携講座（東洋大学）の様子



図書館の電子書籍サービスホームページ

## 施策の目的及び成果指標

### ■ 施策の目的（目指す姿）

誰もが意欲や関心に応じて学習し、その成果を生かせるまちにします。

### ■ 成果指標

指標名	基準値 (R6)	目標値		目指す方向
		R12	R17	
1年の間に生涯学習に取り組んだ市民の割合（%）	61.3	62.5	65.0	↗

## 施策の方向性

### 1 多様な学習機会の充実

- ① 市民一人ひとりの学習ニーズに対応するため、大学等の高等教育機関との連携やデジタル技術の活用などを進め、ライフステージやライフスタイルに応じた多様な学習機会の充実を図ります。

### 2 学習成果を生かせる仕組みづくりの推進

- ① 誰もが、学びを通じて身に付けた知識や技術、経験等を地域で生かすことができるよう、市民による講座開催など、学びの成果を生かせる場の充実を図ります。
- ② 様々な世代の人が共に学び合い、地域課題の解決につなげられるよう、気軽に参加でき、楽しみながら身近な課題について学習できる機会の充実を図ります。

### 3 利用しやすい学習施設の充実

- ① 誰もが主体的に質の高い学習活動を行えるよう、公民館、図書館、博物館などの身近な学習施設において、時代のニーズを踏まえた学習環境や学習機会を提供するなど、多様な学習支援の充実を図ります。

施策を取り巻く状況

- ① 少子高齢化の進展、地域のつながりの希薄化、外国籍市民の増加など地域を取り巻く状況が変化する中において、生きがいづくりや健康づくり、地域の関係性の形成などの面で、文化芸術やスポーツの果たす役割は、ますます重要となっています。
- ② 令和6（2024）年度に実施した「第15回市民意識調査」によれば、「文化芸術活動をどの程度行っているか」との問いに対し、「ほとんど行っていない、または行っていない」と回答した人の割合は64.5%となっています。文化芸術活動を行っていない理由としては、「興味がない」が32.8%で最も多く、次いで「時間がない」が26.3%となっています。また、同調査において、「1回30分以上のスポーツや運動をどの程度行っているか」との問いに対し、「ほとんどしていない」と回答した人の割合が49.2%となっており、市民の生活に文化芸術活動やスポーツが十分に浸透しているとはいえない状況です。
- ③ 令和6（2024）年度に実施した「川越市文化芸術及び生涯学習に関する意識調査」及び令和5（2023）年度に実施した「川越市スポーツ意識調査」によれば、文化芸術活動やスポーツをより活性化するために必要なものとして、身近な活動場所や施設の整備を求める割合が高くなっています。  
 一方で、本市の文化施設、スポーツ施設は、その多くが建設後30年を経過し、老朽化が進んでいます。また、施設の整備に向けては、多様化する市民ニーズを捉え、施設が果たすべき役割を整理した上で取り組む必要があります。
- ④ 本市では、国内3都市、海外3都市と姉妹・友好都市提携を結び、文化、スポーツ、教育などの分野で様々な交流を行っています。近年、デジタル化などの社会の変化によって、より幅広い交流に向けた選択肢が広がってきています。



川越市美術展覧会の様子



小江戸川越ハーフマラソンの様子

## 施策の目的及び成果指標

### ■ 施策の目的（目指す姿）

誰もが気軽に文化芸術やスポーツに親しみ、交流できるまちにします。

### ■ 成果指標

指標名	基準値 (R6)	目標値		目指す方向
		R12	R17	
文化芸術活動を年1回以上行う市民の割合（%）	34.9	37.5	40.0	↗
1回30分以上のスポーツや運動を週2日以上行う市民の割合（%）	32.2	36.0	40.0	↗

## 施策の方向性

### 1 文化芸術・スポーツに親しむ機会の充実

- ① 誰もが文化芸術やスポーツを身近に感じられるよう、様々な文化芸術やスポーツを気軽に鑑賞・体験できる機会の充実を図ります。
- ② 文化芸術活動やスポーツを、楽しみながら意欲的に続けることができるよう、文化芸術活動の発表機会やスポーツ大会、イベントなどの充実を図ります。

### 2 文化芸術・スポーツを通じた交流の促進

- ① 各種活動団体への支援や、活動を担う人材の育成を進め、文化芸術活動やスポーツを通じた地域交流の促進を図ります。

### 3 文化・スポーツ施設の充実

- ① 文化芸術やスポーツの活動拠点として、時代のニーズを踏まえた、より魅力的で利用しやすい文化施設やスポーツ施設の整備充実を図ります。

### 4 様々な地域との文化交流の充実

- ① 国内外の姉妹・友好都市と、幅広い分野において、多様な手法による交流を促進するとともに、様々な地域の文化等を学ぶ機会の充実を図ります。

施策を取り巻く状況

- ① 本市には、城下町として発展してきた中で建造された、時の鐘、川越城本丸御殿などの貴重な建造物や、県内で唯一、重要伝統的建造物群保存地区\*として国の選定を受けている蔵造りの町並み、国の重要無形民俗文化財でありユネスコ無形文化遺産に登録されている川越氷川祭の山車行事（川越まつり）など多くの歴史遺産があり、重要な観光資源となっています。
- ② 本市には、令和7（2025）年4月1日現在、「文化財保護法」に基づく重要文化財等が28件、「埼玉県文化財保護条例」に基づく指定文化財が42件、「川越市文化財保護条例」に基づく文化財が192件あります。このほか、現在把握している未指定文化財が1,889件あります。
- ③ 本市の文化財は、所有者や地域の人々を中心に大切に受け継がれてきましたが、少子高齢化等を背景に、文化財継承の担い手不足が懸念されています。特に、民俗芸能、祭礼行事などの無形の民俗文化財については、人から人に伝えられるという性質上、継承が困難となることが危惧されています。
- ④ 未指定文化財は、高齢化等の中で滅失、散逸等の危機にあるものが相当数存在すると考えられます。これまでも調査を行ってきましたが、十分には実態を把握できていない状況です。



川越氷川祭の山車行事（川越まつり）の様子



石原のささら獅子舞の様子

\*重要伝統的建造物群保存地区：伝統的建造物群と一体となって価値ある歴史的な環境を保存するため、「文化財保護法」及び「都市計画法」に基づき、市町村が定めた伝統的建造物群保存地区のうち、我が国にとって、その価値が特に高いものとして国が選定した地区。

## 施策の目的及び成果指標

### ■ 施策の目的（目指す姿）

地域固有の貴重な文化財を、地域総がかりで保存・活用し、次世代に継承していくまちにします。

### ■ 成果指標

指標名	基準値 (R6)	目標値		目指す方向
		R12	R17	
文化財保存活用支援団体*の指定数（団体）	0	2	4	↗
文化財や歴史遺産を保存活用する活動（お祭りなどの伝統行事、博物館・公民館の講座等も含む）に参加してみたいと思う市民の割合（％）	30.7	32.0	34.0	↗

## 施策の方向性

### 1 適切な保存・活用の推進

- ① 地域の歴史遺産の状況を把握するため、継続的な調査を行い、未指定文化財に代表されるような、一般には余り知られていない歴史遺産の掘り起しを図るとともに、指定等文化財についても管理状況などの現状把握を進めます。
- ② 指定等文化財について、所有者が適切な保存・活用、継承を図れるよう支援するとともに、市所有の指定等文化財の保存・活用を計画的に進めます。
- ③ 文化財の保存・活用に地域総がかりで取り組めるよう、幅広い世代の多様な主体が参画できる仕組みづくりを進めます。また、講座の開催等により、地域における新たな担い手の育成・確保や、保存に必要な知識・技術の継承を図ります。

### 2 地域固有の文化財の理解促進

- ① 文化財の本質的な価値や魅力を、広く市民や来訪者に伝えるために、公開や普及啓発を行うほか、観光や教育など幅広い分野において、各文化財の特性に応じた適切な活用を図ります。

\*文化財保存活用支援団体：市と民間団体が連携しながら文化財の保存・活用に取り組むために、「文化財保護法」に基づき指定された団体。

